

地域と大学、学生をつなぐ
ワンストップのハブセンターを目指します。

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構

Organization for Research and Community Cooperation

生活科学研究所
女性未来研究所
地域連携推進センター
ヒューマンライフ支援センター
森のサロン

地域と学生、大学の連携・協働と「ひとの生 (Life)」

ヒューマンライフ支援機構にご期待ください。

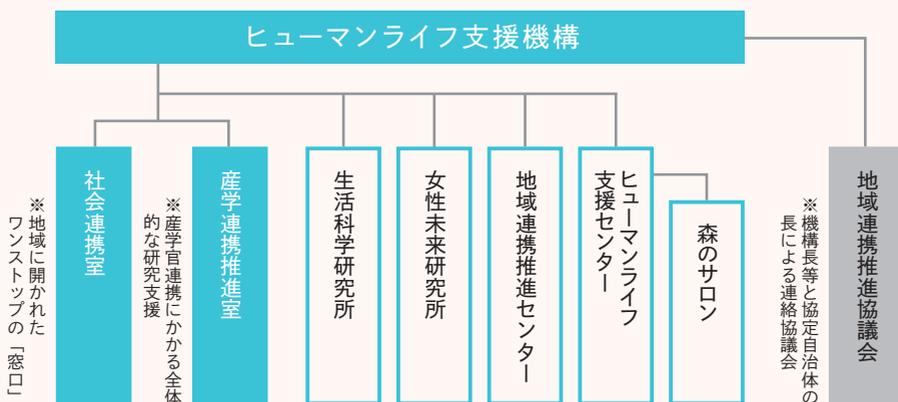
東京家政大学は1881(明治14)年に創設以来、141年目を迎えました。
この間、本学の教育・研究の成果を「ひとの生 (Life) を支える学」として
広く社会に発信し、地域の課題解決に向けた取組を
行政、企業、NPO等と協働してすすめてまいりました。
こうした本学の取組を基盤に地域と学生、
大学を結ぶワンストップセンターとして、
「ヒューマンライフ支援機構」を2020年4月に開設いたしました。
依然としてコロナ禍ではありますが、
皆さまのご理解とご支援のもと、
社会連携・産学連携の取組を一層活発化してまいります。

機構長
飯塚 堯介



MESHITSUKA Gyosuke 元東京家政大学家政学部服飾美術学科
教授、東京大学名誉教授、日本学術会議20期・21期会員、22期・
23期連携会員。専門/生物材料化学、バイオマス化学

組織図



社会連携室

大学と連携したいが、どこに連絡をすればよいかわからないとよく聞きます。社会連携室は行政、企業、NPOなど本学との連携を希望される方々が気軽に相談できる「窓口」となります。



社会連携室長 **内野 美恵**

本学の専門である「ひとの生(Life)を支える学び」は、社会の多種多様な分野と連携することが可能です。本学学生の勤勉で若くしなやかな発想力は、これまでの産学官連携事業において、多くの成果を上げています。

UCHINO Mie 本学ヒューマンライフ支援センター専門員(准教授)、東京都食育推進協議会委員、日本パラリンピック委員会医科学情報サポートスタッフ、博士(学術)、管理栄養士

Contact E-mail: uchino@tokyo-kasei.ac.jp

産学連携推進室

本学は食ること、着ること、健康であることなど、人々の生活にかかわる多様な研究を行っています。産学連携推進室は大学のシーズと行政や企業等のニーズをマッチングし、社会実装(社会の役に立つ)を目指し、産学官の連携による共同研究・受託研究等を活発化します。



産学連携推進室長 **佐藤 吉朗**

本学の「強み」を最大限発揮しつつ、行政、企業、NPO等をパートナーに連携・協働をすすめてまいります。これらの取組の成果を本学の「研究力」の強化につなげ、生活研究の家政大ブランドを確立できるよう努めます。

SATO Yoshio 本学家政学部栄養学科教授、生活科学研究所所長。2010年に食品企業から本学に、食品の安全から「おいしさ」まで「食」にかかわる幅広い事象が研究テーマ。

Contact E-mail: satouy@tokyo-kasei.ac.jp



産学連携推進室 産学連携ディレクター **藤本 浩**

産学連携推進室では、企業との共同研究、受託研究等を通じて家政大一産業界の連携を推進しています。私は食品企業における研究者として、また、国立研究機関での産学連携・知財管理の経験が豊富です。お気軽にご相談ください。

FUJIMOTO Hiroshi 国立研究開発法人理化学研究所、産業連携部バトンゾーン研究推進課、一級知的財産管理技能士(特許専門事務)

Contact E-mail: sangaku-D@tokyo-kasei.ac.jp

産学連携の仕組み

本学は食生活、健康であることなど、人々の生活にかかわる多様な研究を行っています。産学連携推進室は大学のシーズと行政や企業等のニーズをマッチングし、社会実装を目指し、産学官の連携による共同・受託研究を活性化します。

学術指導

- 学術指導とは、企業等からの委託を受け、本学教員が教育・研究上の専門的知識に基づき指導・助言、情報提供等を行い、その課題解決を支援する仕組みです。研究を具体化する前段階の包括的な支援としても活用できます。
- 学術指導を受けたい本学教員（研究者）がいる場合には事前に指導内容等についてご相談ください。どの教員の指導を受けたいかわからない場合は、本機構産学連携推進室にご相談ください。学術指導にあっては、1時間につき10,000円を基準に学術指導料のご負担をお願いいたします。

共同研究・受託研究

- 共同研究は、民間機関等から研究経費又は研究員を受け入れて、本学の教員が民間機関等の研究員（共同研究員）と共通の課題について共同して研究を行います。受託研究は、民間機関等から委託を受けて、本学の教員が委託機関等からの委託研究費によって研究を行います。
- 共同研究・受託研究の申し込みは、担当する教員を通じて行っていただきますので、まずは直接希望する担当教員、または本機構産学連携推進室にご相談ください。
- 共同研究・受託研究の受入れが決定しましたら、本学と民間機関等で契約（共同研究契約、受託研究契約）を締結し、研究がスタートします。

共同研究講座・共同研究部門

- 共同研究講座・共同研究部門とは、企業等から出資を受け、本学からは研究者と研究施設・設備を提供することで、共通の課題について長期的・継続的に共同研究を行う組織を設置するものです。
- 共同研究講座とは学部・研究科に設置する組織で、共同研究部門とは研究所等に設置する組織です。
- 設置期間は2年から5年を標準としています。共同研究と同様、企業等から共同研究員を受け入れることも可能です。
- 本学の研究者（複数可）との安定的な共同研究拠点の制度としてご活用ください。



家政大の研究シーズ

www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/seasons.html

研究シーズ(Seeds)とは、大学と企業、行政、地域等との産学連携、社会連携の「実」となり「芽」となる「種(たね)」のことです。

本学では子どもから高齢者まで、人々の生活にかかわる多様なユニークな研究が行われています。それぞれの教員がどのような研究に取り組んでいるのか、その研究活動の一端を、「子どもと学び」、「食と栄養」、「健康とからだ」、「環境と暮らし」、「こころと表現」をガイドに紹介しています。興味を持たれたシーズがありましたら、産学連携推進室までお問合せください。



濱田 仁美 HAMADA Hitomi
家政学部 服飾美術学科 教授

天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発

研究内容
繊維の多機能化は現代社会においては、重要な課題の一つである。従来の繊維は、機能性を高めることができていない。例えば、紫外線や生活臭などを発生する人は多く増加し、高機能化のニーズが高まっている。本研究は、天然由来の植物抽出物を用いた天然由来ナノ材料の開発、天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発を行っている。

研究の進捗
天然由来ナノ材料の開発に成功し、天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発を行っている。

研究の成果
・天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発に成功し、天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発を行っている。
・天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発に成功し、天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発を行っている。
・天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発に成功し、天然由来ナノ材料を用いた機能性被服材の開発を行っている。

お問い合わせ
〒100-8302 東京都千代田区千代田1-3-1 東京家政大学 研究シーズ室
TEL: 03-5621-2600 FAX: 03-5621-2601
E-mail: seasons@tokyo-kasei.ac.jp

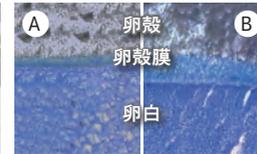
共同研究講座

産学連携推進室のコーディネーターで新たに2つの共同研究講座が開設されました

キューピー株式会社との連携

キューピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所

本研究所では、タマゴの魅力、おいしさについての普及に取り組んできました。さらにタマゴの正しい情報を毎月メールマガジンと動画で配信し、卵の保存、ゆで卵、目玉焼きやデビルエッグなどの料理もエビデンスを加えて紹介しています。また、「卵の成分の分析とおいしさの解明」をテーマに、濃厚卵白と水様卵白の調理特性の比較、冷凍卵の食感、油滴径の異なるケーキの違いなども研究し、「おいしいタマゴが創る健康生活」の研究成果を広く発信して参ります。



【写真左】デビルエッグは、春のイースターに食べられる行事食。ゆで卵の卵黄をつぶしてマヨネーズで調味し、胡椒やパプリカなどでスパイスに。本研究所では悪魔の黒い卵黄を紹介。【写真右】ゆで卵の構造。食品科学学会第68回大会で発表。Aが保存した卵、Bが新鮮な卵

株式会社じゃばら北山との連携

じゃばら北山・東京家政大学 じゃばら研究所

「じゃばら」とは、ゆずと他の柑橘類が自然交配して生まれた和歌山県北山村の特産品です。講座では「じゃばらを食べると花粉症が良くなる」という消費者からの口コミに対し、本当に花粉症に効くのか、花粉症の予防・改善をはじめ「じゃばら」の含有成分の効果について「ジャバラが含有するフラボノイド、中でもナリルチン、ナリゲリンなどの生体調節機能の解明」を主なテーマに、多角的な研究をすすめます。



【写真左】おなじみの肺活量のほか、鼻腔抵抗も測定できる特殊なスパイロメーター。NIOXでは呼気(吐いた息)の中の一酸化窒素をppmレベルで測定し、炎症の有無を探る。【写真右】収穫したじゃばらを手にする和歌山県北山村の皆さん。村でたった1本になってしまったじゃばらの木を村の宝として大切に育て、今では5000本に

概要 設置期間：令和3年4月1日～令和6年3月31日 研究体制：特命教授 峯木真知子/特任講師 小泉昌子/共同研究員 設楽弘之(キューピー(株))



共同研究講座特命教授
前副学長(研究・産学連携担当)
人間生活学総合研究科長

峯木 真知子
MINEKI Machiko

日本における鶏卵の一人当たりの消費量は世界第2位で、身近で高栄養な食品です。近年、鶏卵の新たな機能として、筋力アップやダイエット、視力の維持に重要な役割を担っていたり、脳活性に与える効果などがわかってきています。本研究所は、タマゴのおいしさを解明し、その成果をわかりやすく消費者に発信するとともに、鶏卵を対象とした研究者の育成を目指します。

概要 設置期間：令和3年4月1日～令和6年3月31日 研究体制：人間生活学総合研究科教授 澤田めぐみ/共同研究員 和泉又兵衛((株)じゃばら北山)



人間生活学総合研究科
人間生活学専攻主任
家政学部栄養学科教授

澤田 めぐみ
SAWADA Megumi

これまではじゃばらのスギ花粉症に対する即効性や継続摂取による効果を調べるため臨床研究を実施しました。2021年は花粉シーズンを通して、摂取を続けた場合の効果も調査しました。じゃばらの機能は、その他のアレルギー疾患に対しても有望と考えられ、気管支喘息に対する研究も予定しています。

各研究所・センターの紹介

生活科学研究所、女性未来研究所、
地域連携推進センター、ヒューマンライフ支援センター、森のサロン、
本学の学生たちを緩やかにつなぐネットワーク。



生活科学研究所

／ 地域に開かれた生活科学の教育・研究の場 ／

昭和23年の設立以来、幅広い分野にわたる学際的な生活科学研究を推進し、行政や企業との共同研究等産学連携をすすめています。全国の高校生による研究コンクールや各種講演会、食育活動等広く本学の教育・研究の成果を発信しています。

Contact -----
TEL: 03-3961-2502 E-mail: rids@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/research/rids/index.html



幻の白藤米の復活と酒の仕込み（酒造会社との連携）

女性未来研究所

／ 女性100年、過去から未来へ ／

建学の精神である「自主自律」の道を歩み、生活信条である「愛情・勤勉・聡明」のもと、未来を創造する女性を支援するため調査研究と活動を行っています。SDGsの目標を共有し、コミュニティの課題解決に参画する「女性」を探求しています。

Contact -----
TEL: 03-3961-5305 E-mail: josei-mirai@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/research/woman/index.html



樋口恵子名誉所長と卒業生を招いた講演会

地域連携推進センター

／ 地域課題の解決に向けた地域と大学を結ぶ連携拠点 ／

本学の教育・研究の成果をもって、様々な地域との連携により多種多様な「学び」の開発・実施の他、調査研究事業を展開しています。地域課題解決に向け、自治体・企業・他大学等との協働による地域活性化の推進に取り組んでいます。

Contact (SAYAMA) -----
TEL: 04-2955-6959 E-mail: chiiki@tokyo-kasei.ac.jp
Contact (ITABASHI) -----
TEL: 03-3961-5742 E-mail: syogai@tokyo-kasei.ac.jp
共通URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/commulic/top.html



保育者研修会「子どもを健やかに育てるための生活と遊びの展開を考える」

ヒューマンライフ支援センター

／ 地域のニーズに学生の学びで応える ／

「地域のニーズに学生の学びで応える」をモットーに産学官連携事業を展開しています。本学の「知」を活かし、子どもやお年寄りへの支援活動、食育、デザイン、商品開発等、学生にとっても授業とは異なる実学の場を創造しています。Human Life Plazaの頭文字をとって愛称はHulip（ヒューリップ）です。

Contact -----
TEL: 03-3961-5274 E-mail: hulip@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/index.html



栄養学科・栄養科の学生による地域の小学校での食育出前授業

森のサロン

／ 親子でほっと一息つける場所 板橋区地域子育て支援拠点事業 ／

0～3歳のお子さんを持つご家庭対象の子育てひろばです。「であい・ふれあい・学びあい・育てあい・思索、対話の場」をテーマに、学内外の専門家による講座やイベントの開催、週末サロン、個別相談、リフレッシュ保育等を開催しています。また学生によるイベントの企画や実習の受け入れ等、学びへの支援も行っています。

Contact -----
TEL: 03-3961-6354 E-mail: morinosalon@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/salon/index.html



学生作の大型遊具、森のサロンオリジナル玩具で自由に遊べます

主な社会連携・産学連携の歩み

- 東武百貨店池袋店SPICEメニュー開発（～2014）
- 東京都北区「高齢者ふれあい食事会」協力（～継続中）
- 「白藤プロジェクト」（企業、農家との連携による白藤米の復活）が発足
- 学生が企画し運営した食育カフェ「茶の間-CHANOMA-」が第3回東京商店街グランプリにて「地域活性化部門 準グランプリ」を受賞
- 板橋区地域子育て支援拠点事業「森のサロン」スタート
- 東京都板橋区・大学公開講座（連続6回、隔年開講、～継続中）
- 東京都北区と包括協定を締結
- 狭山市教育委員会・入間市教育委員会等との連携「子ども大学さやま・いるま」スタート（～継続中）
- 「白藤プロジェクト」が農林水産大臣賞を受賞
- 東京家政大学オリジナルピンクリボン※啓発カレンダー制作（～継続中）
※アメリカから始まった乳がんの早期発見・早期検診・早期治療を促す啓発運動
- (株) ロフト「カロリーBENTO」レシピ考案（～2016）
- 初代所長に樋口恵子氏就任
- 東京都板橋区共催「いたばし(あい)カレッジ」（～2017）
- 北区共催「さんかく大学」（～2017）
- 群馬県共催「とらいあぐるん大学連携講座」（～2017）
- 埼玉県狭山市、千葉県長南町、東京都板橋区と包括協定を締結
- 入間市と東京家政大学との子育て支援に関わる調査研究
- 東京家政大学×北区×東洋大学「東京2020オリンピック・パラリンピックプロジェクトチーム」協力（～2021）
- 埼玉県入間市と包括協定を締結
- 特別区長会調査研究機構・板橋区提案による自尊感情に着目した育児期女性の支援に関する基礎研究
- 板橋区環境協働プロジェクト「親子環境学習講座」
- 狭山市と東京家政大学とのスポーツと健康・食生活に関する調査研究
- 「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）包括協定」締結
- 「東京家政大学ワークライフバランスin農業女子プロジェクト」が発足
農林水産省が支援する農業女子プロジェクトの連携大学となる
- 東京都板橋区・北区共催「子育てママの未来計画」（～2021）
- 学生有志団体食リンピック実行委員会の取り組みが農林水産省主催「第4回食育活動表彰」にて消費・安全局長賞を受賞
- 学生が森のサロンにて企画実施しているアートワークショップ「学生がつくるサロンプロジェクト」が厚生労働省主催「第9回健康寿命をのぼそう！アワード（母子保健分野）」にて子ども家庭局長賞 団体部門 優良賞を受賞
- 狭山市・入間市と東京家政大学との地域住民の運動習慣と身体機能に関する実態調査研究
- 双日株式会社【玄海鷹島本まぐろ】レシピ開発およびブランディングプロジェクト（～継続中）
- 地域小学校との教育連携事業が文部科学省後援公益財団法人 修養団（SYD）主催「第16回 SYDボランティア奨励賞」にて優秀賞を受賞
- 東京都板橋区共催「子育てママの未来計画」

●生活科学研究所 ●女性未来研究所 ●地域連携推進センター（板橋）
●地域連携推進センター（狭山） ●ヒューマンライフ支援センター

学生が参加したプロジェクト



ワークライフバランス in 農業女子プロジェクト 農林水産省が推進するパートナー校として、女性ならではの新しい発想で事業を企画します



学生がつくるサロンプロジェクト 森のサロンを舞台に、学生がワークショップや環境設定の企画・実施・冊子制作を行っています



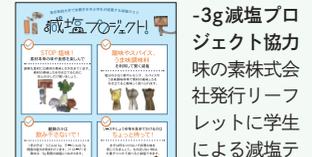
北区立柳田小学校教育連携事業 児童が黙食の給食時間を楽しめるよう、放映する動画教材を制作し提供しています



長南町の特産品を使用したレシピ開発 校祖生誕地である千葉県長南町の特産品を使ったレシピを学生が考案し、緑苑祭にて提供しました



双日株式会社レシピ開発およびブランディングプロジェクト 栄養学を学ぶ学生がまぐろレシピを開発し、ブランディングについて提案しました



-3g減塩プロジェクト協力味の素株式会社発行リーフレットに学生による減塩テクニックの紹介と、コラムページのレイアウト・デザインを行いました



TJUP自治体魅力再発見プロジェクト TJUP会員校の学生達が主体となり、自治体と連携し、「街の魅力再発見」をテーマにチラシを制作しました



食リンピック（食育イベント） 家政大学発の「食育」の浸透を目的とした、五感を使った「食」の競技を学生が企画・運営します



昭和産業グループレシピ開発教育プログラム 企業との勉強会や施設見学等を経てレシピを考案。入賞レシピは卵のパッケージに採用されます



狭山市・入間市・TJUP共催「夏休み子どもスポーツ体験教室」 教員を目指す学生達が地域の教育支援活動に参加しました



北区社会福祉協議会「子ども・若者応援基金」 子ども・若者の未来を応援する基金のロゴマークを学生がデザインしました



北区みんなで楽しむ食育フェア 協力「食の大切さ」や「食の楽しさ」をテーマに、五感を使った食育ゲームや食育おもちゃを通して来場者と交流します

PICK UP

生活科学研究所

身近な生活の不思議をカタチに 生活創造コンクール

全国の高校生を対象に、「家庭」「福祉」「環境」「文化」に関する「生活をテーマとする研究・作品コンクール」を2004年から開催しております。今年度は20回目を迎え、新たに「生活創造コンクール」(SSC2022プロジェクト)と名称を変え、生活に関わるさまざまな研究を募集いたします。文系理系にかかわらず多様な課題解決に向けて、個人、グループで取り組んだ研究はどれも興味深く、あらためて気づきを与えてくれます。優秀な作品の要旨を掲載した冊子「高校生の萌芽的研究」を発行し、研究を形として残すことで、さらなる継続や発展に繋がるような取り組みをしています。



入賞作品をまとめて掲載した作品集は、県内外の高校にも配布されます。



学園祭の際に行われる表彰式には全国から入賞校が集まります。

女性未来研究所

女性の活躍推進に向けた共催事業 子育てママの未来計画

子育て中の女性たちが自分自身の生活や希望を見つめ直し、今後の人生をイメージできるよう構成された連続講座を実施しています。研究プロジェクトを行っている研究員が講師を務め、こころの元気を取り戻す方法を学ぶ『レジリエンス編』、毎日の生活を客観的に見直す『家政学入門編』、講座受講者が自分らしい未来をイメージする『ライフデザイン編』の3部構成になります。



この講座は、主にグループワークを行う対面講座とホワイトボードアプリを使用したオンライン講座があります。また、自治体と共同で行っており、本学と包括協定を結ぶ東京都板橋区との、2者共催事業として年1回講座を開催しています。



ワークシートを使いながら、普段の生活を振り返り、さまざまな視点で「自分」について考えます。

PICK UP

地域連携推進センター

未来を担う子どもたちの成長を育む 「地域の教育支援」 子ども大学さやま・いるま

「子ども大学さやま・いるま」は、狭山市・入間市の教育委員会と本学が実行委員会を組織し開催しています。子ども大学は、平成14年にドイツのチュービンゲン大学で始まり、日本では平成21年に「子ども大学かわごえ」が誕生。平成22年から、埼玉県の全面的な支援を受け、地域の大学や市町村等が連携して子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会を提供し、子どもの学ぶ力や生きる力を育む仕組みとして埼玉県内での実施が拡がり、現在50をこえる「子ども大学」が開講しています。本学では、平成23年度に始まり今年11期目を迎え、毎年、本学教員・地域の専門家より「はてな学・ふるさと学・生き方学」の三つのキーワードにより、大学の特色を活かした教育プログラムを開発・実施しています。例年、定員を大きく超える応募を頂き、保護者の方々にも好評を得ています。



【生き方学】思いっきり声を出して、体を動かして詩を読んでみよう!～言葉・体・心が繋がっていることを実感!声に出して、詩の世界を味わってみよう!!～



「子ども大学さやま・いるま」入学式、全学生が揃っての集合写真(狭山キャンパス ラーニングcommonsにて)

ヒューマンライフ支援センター

産学連携の実践型教育プログラム 玄海鷹島本まぐろレシピ開発および ブランディングプロジェクト

双日株式会社の手掛ける養殖【玄海鷹島本まぐろ】の新しい食べ方やPR方法について、学生が女子大生の視点から提案を行うプロジェクトを実施しました。養殖環境について学ぶ「養殖ビジネスセミナー」から始まり、全4回のグループワークにて、PR方法やレシピのアイデア、SNSの活用方法等について話し合い、料理写真の撮り方やブランディングについても学びました。その後、参加学生それぞれがレシピを考案し、中間報告会を経てブラッシュアップしたレシピを最終報告会で発表しました。最終報告会では、第1部は考案したレシピのプレゼンテーションを個人で、第2部はブランディングに関するプレゼンテーションをチームで行いました。双日株式会社関係者および専門家



双日賞「大トロのレアステーキ～なんちゃって世界旅行風ソース添え～」

より、質疑応答など活発な意見交換や充実したアドバイス・講評をいただき、学生にとって貴重な経験となりました。



専門家や企業の方々へ向け、レシピやブランディングについてプレゼンテーションを行いました。

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構

Organization for Research and Community Cooperation

173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

TEL: **03-3961-5537**

E-mail: orcc@tokyo-kasei.ac.jp

URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/index.html
